



東北育種場における 林木育種研修会への取組み

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター東北育種場 湯浅 真

はじめに

東北育種場は、東北育種基本区(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、新潟県)において、県および森林管理局と連携して林木育種事業を進めています。ここでは、本事業における一般次代検定林の役割と、その調査を担当する森林管理(支)署の職員が林木育種事業への理解を深める機会として平成28年度から東北森林管理局と共催している林木育種研修会について紹介します。

精英樹の選抜と一般次代検定林

林木育種センターは、林木の新品種の開発と普及、遺伝資源の収集・保存・配布、海外に対する林木育種技術協力の3つの事業を行っており、林木の新品種の開発は、山崩れの防止やCO₂の吸収、木材の生産など森林の多面的な機能を発揮させることを目的としています。この中で、単位面積あたりの収穫量の増加を目標として成長の優れた遺伝的特性を持つ品種を開発するため、林木育種センターは昭和29年から都道府県および森林管理局と協力し、全国の民有林と国有林から成長の優れた「精英樹」を約9,000本選抜しました。これらの精英樹について樹高と胸高直径等の成長量の遺伝特性を評価するため、精英樹のこどもやクローンで構成された一般次代検定林が国有林と民有林に設定されました。これらの検定林では定期的に調査が行われ、その結果は山行き苗木の供給源である精英樹で構成された採種園や採穂園の改良に利用されています。

国有林に設定された一般次代検定林については、育種事業の主体である林木育種センターが調査を行ってきました。しかし、その結果が国有林において育成品種



写真1 津軽森林管理署金木支署内に設定された一般次代検定林の調査

の適応性を判定するために必要であることから、『「国有林内検定林の見直し等について」の改正について』によって、平成22年から森林管理局が調査

を担当することとなり、森林管理(支)署職員が育種場職員の調査指導のもとで毎年2ヶ所程度の検定林を調査しています(写真1)。

一般次代検定林から選抜したエリートツリー

近年、精英樹と比較してさらに成長等に優れた苗木が求められています。そこで、東北育種場は、一般次代検定林において優れた成長を示していたスギ69個体とカラマツ20個体を、次世代の精英樹(エリートツリー)として選抜しました。さらに、第3世代のエリートツリーを選抜するために、第2世代同士を交配して得られたこどもを植栽した育種集団林を造成しています。

平成25年5月、森林によるCO₂吸収量を確保するために森林の間伐にかかる特別措置法が改正(改正間伐特措法)され、成長に優れた種苗の母樹(特定母樹)の増殖を支援する財政措置が新設されました。この改正を受けて、特定母樹としてエリートツリーを普及するため申請を行い、東北育種基本区ではエリートツリーからスギ25個体、カラマツ9個体の特定母樹が指定されました(平成30年2月末現在)。

おわりに

検定林や林木育種事業の普及・啓発を目的とした林木育種研修会は、平成28年度には4(支)署、平成29年度には6(支)署と東北森林管理局で開催されました。いずれの研修会でも主に若手職員から多くの質問があり、林木育種事業に対する興味の大きさを実感しています(写真2)。今後は、検定林調査にあわせて調査を担当する森林管理(支)署において研修会を開催する予定ですが、依頼に対しても積極的に対応したいと考えています。東北育種場は今後もエリートツリーの選抜をすすめ、特定母樹の数をさらに増やしていく予定です。



写真2 宮城北部森林管理署における林木育種研修会